

(様式2)

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1571700465		
法人名	特定非営利活動法人 心つくし会		
事業所名	グループホーム ありがとうの家 (第一ユニット)		
所在地	新潟県五泉市村松甲5604番地1		
自己評価作成日	平成23年3月5日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n-kouhyou.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成23年4月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地は緑豊かな里山に囲まれて吹く風や鳥の囀りに季節を感じ、気候の良い時は散歩や屋外食など、四季折々の自然に触れることができる。
同一敷地内にはこども園と学童保育ルームがあり、子供たちとの触れ合いを楽しみ、又、デイサービスセンター、有料老人ホームも敷地内にあり交流を行っている。これらの事業所合同で納涼祭や芋煮会などを開催し地域交流を行っている。特に納涼祭は地元青年団の協力開催で多くの地域住民の参加が得られた。
地域に伝わる伝統行事や郷土料理を生活に取り入れ、温かな雰囲気での支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員とが課題を共有しながら、ホーム全体でサービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。地域密着型サービス評価における自己評価を職員一人ひとりがそれぞれに行い管理者がまとめるという方法が徹底されている。サービス評価の機会を、職員自らが自分たちが行うケアを振り返る良い機会と捉えている。また、職員会議や委員会でだされた職員の意見・要望は運営に活かされており、管理者・職員間は風通しのいい関係がつけられている。
利用者の安心・安全を確保するための体制作りにも重点的に取り組んでおり、地震や火災を想定した防災訓練をほぼ毎月行っている。地域の青年団とも連携し緊急時の協力体制作りにも努めている。また、利用者の急変時や事故発生時の対応についても、職員がどのような場面で最も不安を感じるのかアンケート調査を行い優先順位の高いものから研修内容に取り入れ、実践的な学びを利用者のケアに役立てている。
利用者の大きな楽しみとして「食事」も重要視し、地元の食材を使ったり、地域の伝統食等を積極的に献立に取り入れるなど、利用者が慣れ親しんだ地域の伝統や文化を大切にしながら利用者の生活を支援している。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>できる限り住み慣れた地域で、利用者が安心してくらせるよう、内部研修会などで理念を確認、共有し理念に基づいた支援を実践している。</p>	<p>「受容・尊敬・共生」というホームの理念を職員全員で共有し、利用者一人ひとりの気持ちを大切にしながら日々の暮らしを共に歩むという姿勢で支援している。理念をもとに作られた運営方針を内部研修や日々のミーティング等で職員全員で確認し合い、実践につなげている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>日常的な交流はないが、年数回の地域交流行事の開催や祭り神輿訪問など、地域との関わりを大切にしている。 時々近所の方が野菜を届けてくださる。</p>	<p>同じ敷地内にある同法人の他事業所と合同で開催する納涼会や芋煮会などに地域の人から来てもらい、交流を図っている。また、ホームをよく知ってもらえるよう広報誌等を回覧板で回してもらうなど、地域の一員として日々の交流に努めている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>市内中学生や支援学校生の職場体験受け入れを行った。また、広報活動で事業所の取り組みや活動の情報発信に努めている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>現状や取り組みについて報告して意見交換を行いサービスの向上に努めている。行事参加形式での開催を行ったり、包括支援センターや他の地域密着型サービス事業所メンバーに加わり会議の活性化に努めている。</p>	<p>利用者・家族の代表、町内会長、民生委員、地域の有識者、行政職員、地域包括支援センター職員、他事業所の管理者等の参加を得て、ホームの取り組み状況などを報告し、意見交換をしている。会議での意見や助言を日々のケアに活かしサービスの質の向上に努めている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議には毎回市担当者から参加してもらい、情報交換を行っている。 代表者や管理者は担当者に適宜連絡をとって相談し、協力関係を築くよう努めている。</p>	<p>市町村担当者、地域包括支援センター職員から運営推進会議に参加してもらうなど日頃から良好な関係作りに努めている。防災関係の課題等についても積極的に相談して適切なアドバイスや指導を受け、事業所のサービスの質の向上に活かしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや施設内外の研修等により職員は向精神薬の取り扱いを含めた身体拘束についてよく理解しており、日中は玄関の施錠は行わないなど身体拘束をしないケアを実践している。	職員は、内部研修や、外部研修に参加した職員からの復命伝達研修を通じて、玄関に施錠をすることの弊害や「禁止となる具体的な行為」など身体拘束について学ぶ機会を持ち、日頃から身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルや施設内外の研修等により職員は虐待防止についてよく理解しており、言葉による心理的な虐待にも細心の注意を払い防止に努めている。	地域包括支援センターが行った虐待防止に関する研修会に参加し、内部で復命伝達研修を実施した。虐待のチェックリストを使い、職員自身が自己点検をして理解を深めている。また、マニュアルの整備を行い職員がいつでも確認できるようにするとともに、言葉による心理的な虐待が見過ごされることがないように職員同士が注意し合い防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について職員は概ね理解しているが、制度を必要とする利用者はいないので知識はあまりない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が申し込み時から充分に説明を行い、理解、納得を得られている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できるだけ家族との面談の機会を設けたり、面会時等に家族が相談や意見を言いやすい関係作りに努めている。得られた意見は全員で共有し運営に反映させている。苦情、相談箱を設置し外部者へ表せる機会を設けてある。	利用者、家族とのコミュニケーションを大切に、何でも言いやすい関係が作れるよう努力している。また、自由に意見を述べられるよう投書箱の場所を見直すなど、意見、要望を表明しやすい環境作りをしている。出された意見はケアや運営に活かすように努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や各委員会会議などで意見や提案を聞く機会を設けてある。 個人面接やコミュニケーションを図ることにより職員の意見の汲み取りを行っている。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図ることによって意見や要望を表出しやすい環境作りに努めている。また、毎月開催する職員会議や、年1回の理事長との個人面談など職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各自が向上心を持って働けるよう、個人面接の機会を持ったり、アンケートを実施している。また、就業規則を見直し改定を行い、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できる限り施設内外の研修に参加できる機会を設けているが、参加できる人員は限られてしまう。研修会に参加しやすいように、勤務体制に配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域同業者と綿密な交流はないが、他施設見学などの機会を設け、サービスの質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接の段階から本人や家族から生活歴や経験、不安なこと、要望などよく聞き、日々安心して暮らせるように関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接や面会時、家族が不安や要望を話しやすい雰囲気と、信頼関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、計画作成担当者が本人、家族と面談し、必要としている支援の見極めに努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	受容・尊敬・共生の運営理念の基、人生の先輩として敬い、喜怒哀楽を共に受け止め支えあう「家族」という関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、日々の様子を電話連絡や近況報告で知ってもらい、また面会時には家族とコミュニケーションを図って情報を共有し、一緒に支える関係を築いている。	家族の面会時や電話連絡、広報誌などの発送を通じて、本人の日々の生活の様子を伝えている。事業所からの働きかけにより家族の面会の機会も多く、職員は家族とのコミュニケーションを大切にしたい、そこで情報を共有し、本人を支えていくための信頼関係作りに努めている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問時には温かく迎え入れ、快く過ごしてもらえるよう配慮している。 馴染みの場所へのドライブなどの支援を行っている。	友人、近所の方の訪問の際は、気持ちよく過ごしてもらえるよう温かく出迎える等の配慮をしている。また本人がこれまで大切にしてきた馴染みの場所や人に会いに出かけたり、お墓参りに出かけたりすることを積極的に支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士トラブルになる時もあるが、職員が間に入りその時々最善の対応に努め、仲良く支えあい楽しく生活ができるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了で関係の途切れる方が多く、継続的な関わりを必要とする利用者や家族はいないが、退去後に訪問や経過を伝えてくる家族には温かく接している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	折に触れ本人や家族から希望や意向の聞き取り行ったり、日々の関わりの中で把握するよう努めている。困難な場合には家族等から思いを聞き、本人本位となるよう努めている。	センター方式のアセスメントシートを活用して利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望等の把握に努めている。本人からの聞き取りや日々の関わりの中でも汲み取るよう心がけている。また、家族にも、来訪時など折に触れて本人の希望や思いについて意見を聞くようにしている。	センター方式のアセスメントシートの活用が始まったばかりで、職員全員での有効活用には至っていない。使い方や情報共有の方法について再度職員全体で確認することが望まれる。利用者の暮らし方の希望、思いや意向など多くの気づきが職員全体で共有され、本人本位のケアに活かされる事を期待したい。
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報シートや聞き取りなどで生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。また日常生活から得られる追加の情報はケース記録や連絡簿に記入するなどし、職員間で共有するようにしている。	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方については入居時に本人、家族、友人、ケアマネージャー等から聞き取りを行っている。また、日頃の本人との会話の中からも把握するよう努めている。これらの情報はケース記録や連絡簿に記載して職員間で共有し、ケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や朝のミーティング、職員間の申し送り事項(連絡簿)、本人の言動などから、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、持っている力等の現状把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月居室担当がモニタリングを行い、カンファレンスには、本人、家族、職員全員の意見が反映されるよう努めている。また計画書はできる限り直接説明を行い交付している。	利用者一人に対して複数の職員が担当し、介護計画やモニタリングの際に本人がより良く暮らすための意見やアイデアを出し合っている。面会時や電話等で家族の意向も確認し、計画作成担当者が介護計画に反映させている。	職員と家族が同席して話し合う場を設定することが難しくても、面会時等の時間を活用し、本人、家族、職員のそれぞれの思いや意向を伝え合う場を設定してはどうか。そこで互いの思いや意向が共有され、本人がより良く暮らすための計画作成につながることを期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、業務日誌、バイタルチェック、排泄表、連絡簿等に記入し、職員で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス、有料老人ホーム、こども園との交流は喜ばれている。健康状態により、デイの看護師からアドバイスを受たり、特殊浴槽を借りたこともある。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民俗学に詳しい人から伝承文化など聞く機会や、利用者からは昔の慣わしなどを教えてもらう機会を設けている。また消防署の協力を得て訓練を行い、安全確保に努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にしている。協力医院があり、毎月の定期往診と急変、体調不良時、場合によっては夜間でも往診をしてもらっている。	本人、家族が希望する医師から適切な医療を受けられるよう支援している。協力医院との連携のもと、定期の往診や急変時の対応等を受けられる体制もあり、利用者、家族の安心につながっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内のデイサービスに常勤看護師がいて、緊急時はすぐに駆けつけてくれる。また困った時には相談し、アドバイスが受けれるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院関係者(看護師、ケースワーカーなど)と情報交換や相談を行っている。安心して治療できるよう、また早期に退院できるよう、場合によっては病院に出向いている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、事業所の介護、医療体制、対応できること、できないことを説明し理解を求めている。できる限りの支援を行っているが、対応困難な場合を考え、時期を見ながら特養への申し込みを勧めている。	入居契約を行う早い段階で、重度化した場合や終末期の対応についてホームの出来ること、出来ないことを十分に説明し、ケア方針の共有に努めている。家族と相談しながら、必要に応じて特別養護老人ホームの申し込み等についても支援を行っている。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人サービス看護師を講師として、急変や事故発生時に備え、応急手当や初期対応の研修会を行った。急変や事故発生時備え、今後も定期的に研修を行う予定である。	法人内の看護師が講師となり、利用者の急変時や事故発生時の応急手当や初期対応の研修を定期的に行っている。職員から「どのような場面が心配か」など具体的な場面を挙げてもらい、それに合わせた訓練を行い実践力を高める工夫をしている。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練や夜間に消防署立会いで、火災を想定した総合訓練を実施している。 地元青年団と防災組織作りについて会議を開催し協力体制を検討している。	火災、地震等を想定した避難訓練をほぼ毎月実施している。日中、夜間に応じた訓練を行っている。また、地元の青年団と交流し、協力体制を築いている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重する態度や言葉を心がけ、誇りやプライバシーを損ねよう心がけているが、気付かずに配慮にかけた言葉使い、対応をしているかもしれない。	利用者一人ひとりの誇りを大切に、トイレ誘導時などは特に意識しながらプライバシーに配慮した声かけ、対応を行っている。利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重する態度や姿勢を職員全体で心がけ、ケアに取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が安心して思いや希望を表せるよう話しやすい雰囲気作りに努めている。また会話や関わりの中から思いや希望を引き出し、できるだけ自分で意思決定できるような支援に努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り一人ひとりのペースを大切に、希望に添った過ごし方になるように支援しているが難しい時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれに無関心だったり、自身で選択できない人も多いが、季節や好みを考慮しながら、その人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主に下ごしらえや後片付けを一緒にやっている。郷土の伝統料理や風習、季節の食材を活かすようにしている。また職員も同じテーブルを囲み、楽しんで食事をしている。	調理の下ごしらえや後片付けなどは、利用者ができる範囲で職員と一緒にやっている。地元の旬の食材を使い、地域の伝統料理や風習などを取り入れた食事作りをしている。利用者と職員は一緒にテーブルを囲み会話をしながら食事を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量のチェック、体重測定を行っている。水分は好みのお茶やコーヒーなどを用意している。また粥、キザミ、減塩など体調に合わせた食事、量もに配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに合った口腔ケアを行っている。拒否される利用者には、時間をずらすなどの工夫もしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。失禁も見られるが、できるだけ紙パンツに頼りすぎないように支援している。	できるだけ紙パンツや尿取りパットに頼らずに、トイレで排泄が行えるような支援を基本としている。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、失敗のないように必要な声かけや誘導を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便表で確認している。水分摂取や食事にも気を付け、体操やウォーキングなど身体を動かすよう支援している。場合によっては、主治医から下剤の投与を受けている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日と時間帯はきまっているが、希望があればいつでも入れるよう配慮してある。安全を第一とし、湯の温度や時間は主治医の指示も考慮しなければならないが、できるだけ本人の希望に添うようにしている。またゆず湯、菖蒲湯などで季節を感じてもらっている。	第1ユニットを月・水・金、第2ユニットを火・木・土と1日おきで交互に入浴日を設定しているが、利用者の希望があれば曜日に関係なくいつでも入浴できるよう対応している。季節に応じてゆず湯、菖蒲湯などを提供し、入浴の時間が楽しみになるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室であったり、和室であったりその時々居たい場所で休息を取ってもらっている。夜間は状況に応じ、湯たんぼや電気毛布などで気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース台帳に綴じられた処方箋で、薬の目的、副作用、用法や用量を理解している。薬は職員が管理し、バイタルチェック、表情の観察等で変化を見逃さないよう注意している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本情報シートや会話などから、一人ひとりの楽しみや喜びと感ずること、張り合いとなることなどの把握に努めている。例えば編み物や手芸、将棋、調理の下準備など。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	体調、天候を見ながら散歩や畑にと、戸外に出かけられるよう支援している。また季節ごとにドライブなどの行事計画を立て、普段は行けないような場所にも行けるよう支援している。またなかには家族の協力でも外出も行っている。	利用者一人ひとりの希望に沿って行きたい場所に出かけられるよう支援を行っている。普段行けない場所には家族と協力して出かけられるよう支援している。日常的にも、公園への散歩や畑周辺、スーパーへの買い物などに出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ごく一部の利用者が不安だからと少額のお金を所持しているが、物忘れや紛失の問題もあり事務所で管理している。本人の希望や必要に応じ、預かり金のなかから職員が同行し買物ができるように支援している。。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは自由に行えるが、自分で行える人も希望する人もほとんどいない。本人が望めば、職員が替わって電話を取り次いだり、手紙の代筆を行うなどの支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気、採光などに気を配り、壁面飾りや季節の草花を絶やさないようにしたり、冬には居間にこたつを置いて季節感を取り入れている。ホールに隣接したトイレがあり、プライバシーが保てないことが問題点としてあげられる。	神棚や小上がりの畳スペース等、利用者にとって馴染みの雰囲気を感じられる空間作りがなされている。随所に花を飾り、季節感も感じられるようにしている。定期的な換気や障子戸を活用した採光など、利用者が快適に安心して生活できるように配慮がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こたつで横になって寛いだり、居間の一角で将棋をされたり、食堂で編み物をされたりと居間、ホール、居室と思い思いに過ごしてもらっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みの装飾品など、本人と家族の希望を尊重して配置し、居心地良く過ごすことができるよう工夫している。	本人の意向を踏まえ、家族の協力を得ながら、本人がこれまで暮していた居室に近づけるように使い慣れた家具や馴染みの品を持ってきてもらい、その人らしい居室作りを支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やトイレなどはひと目で分かるように字や絵で表示している。 手すりや介助バーの設置など安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない